

【数学】

大阪後期の数学は、以前に比べ論証、証明問題は少なくなっており、この傾向は今年度も同様であろう。また、出題範囲および新課程初年度であることを考慮すると二次曲線、極座標、行列、複素数の出題は考えにくい。従って5問構成であるとする

① 平面・立体図形（ベクトル含む）②積分、③確率、④関数は決まりであろう。もう少し踏み込んで見ると媒介変数、確率と漸化式、三角関数と図形あたりが要注意である。

また、**整数問題が出題される可能性が高いと考えられる。**

ややチェックしにくい分野であるが、種々の例題の解法パターンを見直しておくとう有効であろう。

【生物】

今年度前期の出題内容を検討してみると、大阪医大の後期試験は「国公立大医学部志望者の取り込み」という狙いをより先鋭化させてきたと言える。

以前のような、リード文を読まなくても答えられるような設問は今年少なくなった。それがこれまでは、とくに生物においては細かな知識を訊ねる私大入試にしっかりと対応できていない国公立大志望者に有利に働く最善の策だったのであるが、それには満足せずさらなる高みを目指したいという熱いメッセージを感じる。

さて後期試験の予想であるが、前期で出題された「進化説」や「細胞骨格」、「免疫」、「遺伝子発現」はとりあえず除外できそうである。

すばり、後期は**植物と計算**が狙い目ではないだろうか。

そこで植物関連問題として、「**植物の組織・組織系**」「**光合成・窒素同化**」「**植物ホルモン**」「**生活形・バイオーム**」を、計算系問題としては「**浸透圧**」「**DNA 計算**」「**興奮の伝導速度**」「**尿計算**」「**成長曲線**」などをチェックしておいて欲しい。

知識を問う設問は相変わらず基本的な用語を答えさせることが多いので、教科書やセミナー生物などの各章始めに掲げられている要点のまとめに目を通しておくこと。計算も、以前に演習した際のノートを見直して、解法を確認しておくとうよい。

栄冠は最後の最後までモチベーションを保ち、諦めなかった受験生の頭上に輝くはずである。想いのすべてをぶつけてくれることを、切に願っている。